

gotcha を再考する

竹中裕貴

0. はじめに

Grammar Nazi という表現について、竹中 (2017) で議論した際、次のような一節¹⁾を引用し、「正しい」英語に固執する人々の名称について議論した。(以下、引用文中の下線部は筆者によるものである)：

- (1) Who are these writers? You might think I'm referring to Twittering teenagers or Facebooking freshmen. But the writers I have in mind are the purists –also known as sticklers, pedants, peevers, snobs, snoots, nit-pickers, traditionalists, language police, usage nannies, grammar Nazis and the Gotcha! Gang. In their zeal to purify usage and safeguard the language, they have made it difficult to think clearly about felicity in expression and have muddied the task of explaining the art of writing. (<http://www.bbc.com/culture/story/20140923-dont-be-a-grammar-nazi>)

上記 (1) では、下線部にあるように (language) purist の類似表現として、Gotcha! Gang という表現に触れられており、それは人々の文法の誤りをしてやったりと指摘してまわる人間を指すものであった。しかし、この表現を形成する *gotcha* という語の言語文化的な特性については、議論の中心から離れてしまうため、すでに議論が行われた先行研究 (山田 1982; 山田 2014) を挙げるにとどめ、その詳細な考察は行わなかった。

そこで本稿では、まずこの表現の持つ基本的な言語文化的情報を改めて整理し、その後、現代英語においてはどのように用いられているのかということについて、本調査で発見した用例やコーパスのデータを利用することで再考し、また、新たな言語的側面や問題点についても光を当ててみたい。

1. Gotcha の品詞と意味

ではまず、*gotcha* という表現の言語的な特徴を整理してみたい。上述の通り、これは、早くは山田 (1982)、その後山田 (2014) でも取り上げられ、“(I have) got you” の格式張らない口語表現であること、また“gotcher”と綴る形式もあることがすでに議論されている (この綴字法の種類については後ほど議論することとする)。

また、この表現を採録している英和辞典、英英辞典も多いが、その記述の内容や詳細さについてはかなりばらつきがある。まずは、英英辞典から確認してみる。

CALD3 では、以下のように定義されている：

(2)

got-cha /ɛ'gɒtʃ-ə, \$'gɑ:tʃ-/ *exclamation slang* (said in order to surprise or frighten someone you have caught, or to show that you have an advantage over them) I have got you • “Gotcha, you little thief!” the shopkeeper cried. • “Gotcha!” shouted Tom, as he jumped out from behind the door and leapt onto his father’s back.

—CALD3, s.v. **gotcha**

誰かを捕まえたり、相手の優位に立ったことを示すことで、相手を驚かせたり怖がらせたりするために使用されるとあり、品詞としては感嘆詞 (exclamation) であるとしている。²⁾

また、以下の OALD9 にも、同じく感嘆詞として類似の定義が確認できるが、こちらには、“I’ve got you” の実際の発音を基にした表現したものであることが明記されており、さらには、“I understand” という意味でも使用できることに触れられている。相手の発言を受けて、それに対してくれた形で「わかった」と理解を示すための談話表現としても有用に機能することが分かる。：

(3)

gotcha /'gɒtʃə; NAmE 'gɑ:tʃə/ *exclamation (non-standard)* the written form of the way some people pronounce ‘I’ve got you’, which is not considered to be correct: ‘Gotcha!’ I yelled as I grabbed him by the arm (= used when you have caught sb, or have beaten them at sth). ◇ ‘Don’t let go.’ ‘Yeah, gotcha.’ (= Yes, I understand.) **HELP** You should not write this form unless you are copying somebody’s speech. ↻
MORE LIKE THIS 5 , page R14

—OALD9, s.v. **gotcha**

ただし、OALD9 の “... which is not considered to be correct” や **HELP** の記述も参考にすると、gotcha が、誰かの話し言葉を発音通りに記す以外の目的で書きことばで使用された場合は、誤りであると見なされることが示唆されている。あくまで話し言葉であるということであろう。

いずれにせよ、(2) と (3) それぞれの定義において *slang* や *non-standard* とラベルがあり、前述のとおり、「格式張らない口語表現」であることが改めて確認できる。

さらに別の定義を見ておきたい。OALD9 より情報量の多い ODE3 ではどうだろうか。

- (4) **gotcha** (also **gotcher**) informal ▶ exclamation I have got you (used to express satisfaction at having captured or defeated someone or uncovered their faults).
 ▶ **noun 1** N. Amer. an instance of catching someone out or exposing them to ridicule.
2 N. Amer. a sudden unforeseen problem.
 – **ORIGIN 1930s**: representing a pronunciation.

—*OED3*, s.v. **gotcha**

上記 (4) の定義では, (2) と (3) と同様に感嘆詞としての定義を認めつつ, さらに, アメリカ英語においては名詞としての用法が説明されており, 「誰かの嘘や無知を明らかにするボロを出させたり, 笑いものにしたりする状況」, と「突然で予想外の問題」を意味することがわかり, この表現がアメリカ英語の中でさらに発展し, 広がりを見せていることが窺える。1930年代に現れた表現であることも最後に記述があることから, *OED2* を参照すると **gotcha** ではなく, **gotcher** の形で以下の用例が見つかり, 最初に採録された例文では **gotcher** という綴りであったことが分かる:

- (5) 1932 E. Wallace *When Gangs came to London* xxii. 197 The 'plane was nearing the centre of Cavendish Square, when it suddenly heeled over. Its tail went down and it fell with a crash in the centre of the garden which occupied the middle of the square. 'Gotcher!' It was Jiggs' triumphant voice.
 —*OED2*, s.v. **gotcha, gotcher**

最後に, さらに詳しくその用法の情報を探るために少し長くなるが, Green (2010) の記述も以下 (6) で確認しておきたい。

- (6) **gotcha** *n.* [SE got you!] (orig. US) **1** a sudden humiliation, esp. the inadvertent exposure of the buttocks or genitals.
 1970 (con. 1950s) H. JUNKER 'The Fifties' in *Eisen Age of Rock* 2 (1970) 101: Certain college studs [...] displayed their naked asses to passersby, an act variously called [...] handing out the b.a., gotcha.
2 in fig. use, something that surprises, esp. with the potential for humiliation.
 1999 *Guardian* Guide 5–12 June 57: This week's gotcha's include Jerry Springer's porn-star romp.
gotcha! *excl.* [SE got you!] **1** (also **gotcher! got ya!**) I understand! OK!
 1920 T. THURSDAY 'Mr. Mister' in *All-Story Weekly* 22 May [Internet] 'Get me?' 'Gotcher!' says Purcell. 1954 C. CHESSMAN *Cell* 2455 66: 'I'll meet you here tonight around six.' 'Got ya,' Tim said. 1969 N.

SPINRAD *Bug Jack Barron* 32: 'Ah,' he said. 'Gotcha!' 1978 F. NORMAN *Dead Butler Caper* 38: Okay – five minutes – gotcha! 1983 C. HEATH *A-Team* 2 (1984) 125: 'Nobody comes through that door but me.' 'Gotcha, boss,' Harmson replied. 2000 *Guardian* G2 17 May 9: 'It looks as if she's been re-filed under her mother's name.' Gotcha!

2 (also **gotcher!**) I have got you! [the *locus classicus* was the 1981 *Sun* newspaper headline *Gotcha!* on the drowning of the crew of the Argentine warship *Belgrano*].

1932 E. WALLACE *When Gangs came to London* 197: The 'plane was nearing the centre of Cavendish Square, when it suddenly heeled over [...] and it fell with a crash in the centre of the garden which occupied the middle of the square. 'Gotcher!' It was Jiggs' triumphant voice [OED]. 1952 J. JONES *From Here to Eternity* (1998) 542: Boom! Boom! Gotcha, gotcha! You're dead! Boom! 1964 P. TERSON *Night to Make the Angels Weep* (1967) II xvi: Gotcher then. 1974 (con. 1940s) E. THOMPSON *Tattoo* (1977) 53: 'Race you to the end of the bridge.' He was off like a shot. 'Gotchercockout!' he cried. 1981 *Sun* (London) 4 May [headline] Gotcha! Our lads sink gunboat and hole cruiser. 1999 K. SAMPSON *Powder* 128: He groped for his jeans and worked his fingers into the tiny hip pocket. Aha! Gotcha, you boundah!

3 attrib. use of sense 2.

2006 C.W. FORD *Deuce's Wild* 52: I turned back toward the bouncer. He had a 'gotcha' smile on his face.

(6) ではさらに詳細な定義と用例がみられるが、名詞として「うっかりと尻や性器をさらしてして唐突に恥ずかしい思いをすること」や、比喩的に「特に辱めを与える可能性のあるもの（驚かせるもの）」など、他にはない定義が見られる。また、感嘆詞としては、エクスクラメーションマークを含む *gotcha!* という形で項目の見出し語となっている。³⁾ さらに他の辞書の記述とは異なる点として、*gotcha* は“I have got you!”の意味と関連した *attrib.*、すなわち限定形容詞として、例えば *'gotcha' smile* のように使用されるとしている。この点については、後ほどさらに議論を深めたい。

最後に、英和辞典の定義もいくつか見ておきたい。

(7) a. **got·cha** /gú:tʃə | gótfə/ [(I've) got you が短縮した] 罫
 (略式) ① (発言に対して)わかった! ② つかまえたぞ!; (からかいなどにひっかかった相手に対して)やったぞ! —罫罫 (米略式) 予期せぬトラブル.

—『ジーニアス英和 5』, s.v. *gotcha*

- b. **got·cha** /gɑtʃə/, **-cher** /-tʃər/ «口» *int* a つかまえた, やった, みちゃった, ざまみろ. **b** わかった, はい, 了解. ▶ *n* 1 逮捕, つかまえること; 相手のうそをあばくこと[ゲーム]; (人迷惑な) 暴露(て恥をかかせること); *《俗》《陰部などをうっかり露出して》人を困惑させること: 'This is a ~. おまえを逮捕する! 2 (突然の) トラブル; (ソフトウェアなどの) 不具合, 欠陥. 3 かすり傷, 切り傷. [got you (=I've got you) の発音つづり]

— 『リーダーズ英和 3』, s.v. **gotcha**

- c. **gotch·a** [gɑtʃə|gɔtʃə] *interj.* 【米俗】 1 さあつかまえた, ばら見ちゃった; やっつけた. 2 わかった, 了解. — 【米暗黒街俗】 逮捕. (また **gotcher**) [(I) got you. より]

— 『ランダムハウス英和大 2』, s.v. **gotcha**

今回調査で用いた, 主に学習者用の英英辞典の記述に倣い, 英和辞典にも感嘆詞 (interjection) としての定義があり, その後, 俗語を中心とした名詞としての定義が見られる。ほとんどの部分は英英辞典のものと変わらないことが分かる。俗語の部分については, 「逮捕」という意味での用法があるとしているほか, 「(かすり)傷」や, 『リーダーズ英和 3』では, 「((ソフトウェア)) の不具合, 欠陥」のような非常に細かな定義まである (7b)。

以上, 辞書による定義や用法を概観してきたが, その形態的, 音韻的, そして意味的な発達段階からその用法をまとめておきたい。

まず, その形成の仮定は以下 (8) のようにまとめることができるだろう:

(8) **gotcha** 形成の言語的プロセス

- ① I have got you(!)
- ↓
- ② I have が「省略」される
- ↓
- ③ 音韻的プロセス (同化)
- ↓
- ④ 視覚方言となる → gotcha(!)
- ↓
- ⑤ (品詞転換)
- ↓
- ⑥ 感嘆詞, 名詞, 形容詞

まず、元々は①“I have got you (!)”という話し言葉があり、これが口語で使用される際に、②I have が省略され、got you の部分が残る。got you は、③同化 (assimilation) という音韻的プロセスを経て、イギリス英語とアメリカ英語でそれぞれ、/ˈɡɒtʃə/, /ˈɡɑːtʃə/ (cf. *OALD9*, s.v. **gotcha**) と発音されるようになり、これが④視覚方言として記述されるようになったのが gotcha であった。そこから、その用法を拡張する⑤品詞転換が起こり、主に感嘆詞、名詞、そして形容詞として発展していったのであろう。

さらに意味的な側面もまとめておく。gotcha は、もともと “I have got you” のくだけた口語表現として用いられるが、gotcha へと派生した後に獲得した様々なスラングを含む用法が存在しており、この表現を非常に興味深いものとしている。品詞転換を経て使用されるようになった表現のうち、特に感嘆詞は、口語表現における談話表現として重要な役割を担うことができるようになっている。すわなち、くだけた形で「わかった」と話し相手に理解していることを伝える機能があるほか、誰かを捕らえたり、捕まえたり、ミスを指摘する場合、すなわち相手に対してしてやったりと、自らの優位を示して満足感を得るためにも利用され、和訳は「つかまえた、やった、みーちゃった、ざまみろ」(『リーダーズ英和中』) など、その状況次第で多岐にわたるため柔軟に解釈する必要がある。

名詞としては、主に「逮捕、つかまえること、相手のうそを暴くこと、暴露」(cf. 『リーダーズ英和中』) などの基本的な意味のみならず、そこからさらに進んで、Green (2010) や (7) で認められている多様なスラングとしての用法も存在している。また、このような発展的な名詞の用法のほとんどは、アメリカ俗語であるとされていることも注意が必要である。

最後に形容詞としても Green (2010) が認めているが、上述の通り、これについては後に議論することとする。

2. 英語表現としての社会的背景

次に、この gotcha という表現の持つ社会的な背景について確認しておきたい。まず、(6) の Green (2010) が、gotcha! について以下のように記述していることに注目されたい。

(9) *the locus classicus* was the 1981 *Sun* newspaper headline *Gotcha!* on the drowning of the crew of Argentine warship *Bellgrano*

同様の情報が、*LDEL3* の次の記述からも確かめることができる。

(10) During the Falklands War, *The SUN* newspaper used **Gotcha!** in its HEADLINE when the British sank an Argentine ship. Many people found this insensitive and offensive.

—*LDEL3*, s.v. **gotcha!**

本来は新聞などに現れることのない口語表現である gotcha! が、フォークランド戦争において

イギリス海軍がアルゼンチンの巡洋艦であるヘネラル・ベルグラノイを撃沈した際、イギリスの新聞 *The Sun* の紙面に大きく印刷された [cf. (12)]。下線部からも分かる通り、それは“insensitive”で“offensive”であると読者からはとらえられたようで、イギリス英語話者らに与えたインパクトは非常に大きいものであったのだろう。

さらに、Crystal (2003, p.275) では、視覚方言である *wot* ('what'), *sez* ('says'), *Innit* ('isn't it'), *Gawd* ('God') と並び *Gotcha!* ('Got you!') が議論されており、以下の記述もまた、この表現のもつ背景を知る上で参考になる：

(11) ... It has been used as the name of a television play, and most infamously as a headline of *The Sun* newspaper when the British navy sank the General Belgrano during the Falklands War.

この記述においても、*gotcha* という表現が“infamously”と、非常に悪印象を与えるものとされている。勝利の喜びを表現するためか、それを当然承知で用いた *The Sun* の、おそらくは思惑通り、人々の注目を集め議論を呼んだことは、結果としてこの表現の好ましくないニュアンスが一段と英語という言語の中で確立していくことになった一因であることは間違いないだろう。

上記 Crystal (2003) は、*The Sun* の記事をそのまま画像として掲載されているが、紙面の画像としては、現在 *The Telegraph* の記事により見やすいものを確認できる。

(12)

THE Sun
Thursday, May 4, 1982 14p TODAY'S TV: PAGE 12

QE2 IS SET TO SAIL FOR WAR
Liner may be turned back from a cruise

We told you first
NINE days ago The Sun said that the QE2 was to be called up. Every body at a U.K. Fairford, the Ministry of Defence confirmed it. If you really want to know what's going on in the war say The Sun. We try harder. See Page 2.

GOTCHA

Our lads sink gunboat and hole cruiser

SUNK AN Argie patrol boat like this one was sunk by missiles from Royal Navy helicopters after first opening fire on our lads

CRIPPLED THE Argie cruiser General Belgrano... put out of action by Tigerish torpedoes from our super nuclear sub Conqueror

WAR

BATTLE FOR THE ISLANDS

£50,000 BINGO! Today's lucky numbers are on Page 20.

The Sun's front page on 4 May 1982

(<https://www.telegraph.co.uk/news/picturegalleries/worldnews/9051902/The-Falklands-War-in-pictures.html?image=11>)

以上のように、イギリス英語において *gotcha* が大きく取り上げられた社会的背景を確認した訳であるが、前述の議論から、その使用についてはアメリカ英語においてスラングとしての発展を見せるなど、その存在感が大きいようである。この点については、次節で議論するコーパスを用いた調査においても、同様の傾向が見られる。

3. 綴字法やレジスターをめぐって

これまでの議論で確認したが、gotcha には、gotcher という形で表記される形式もあるようである。辞書の項目としては、gotcher を無視しているものもあり、gotcha が主要な記述形式であると考えられるが、念のためその現れる頻度を BNC と COCA⁴⁾ で調査した (13) の結果を見られたい：

(13) COCA と BNC による gotcha / gotcher の頻度比較

	COCA		BNC	
	Freq.	PMW	Freq.	PMW
gotcha	703	1.23	37	0.38
gotcher	13	0.02	1	0.01

ここでは、品詞や意味などは考慮していないが、2つのことが顕著な傾向として読み取れる。

一つは、前述のとおりスラングとしての用法を獲得し、その用法にさらなる広がりアメリカ英語において持つようになってきていることを裏付けるように、ある程度の語数を確認できた gotcha の使用頻度としては、アメリカ英語 (COCA) がイギリス英語と比べ有意に多い ($p > .01$) ようである。gotcher については、COCA で 13 例確認できたが、BNC ではわずか 1 例しか見つからず、英米間での比較は難しい。

もう一つ上記と関連し、gotcher という形式については、非常に頻度が低く、アメリカ英語 (703 vs. 13) とイギリス英語 (37 vs. 1) 双方であまり用いられていないことであろう。未だ辞書の見出しの一部ではあるのだが、その使用は希であるようである。

また、COCA において、その使用域を改めて確認するためのヒントとなる情報も、以下のよう抽出できる：

(14) COCA による gotcha の使用域別頻度

Registers	Freq.
SPOKEN	263
FICTION	211
MAGAZINE	109
NEWSPAPRE	87
ACADEMIC	33
TOTAL	703

上記のデータは、gotcha が、やはり話し言葉 (spoken) で多く用いられ、続いて、フィクション (fiction) というジャンルにおいて登場人物の台詞の一部として用いられることから、その

使用頻度が比較的高いことが分かる。また、新聞 (Newspaper) や学術的な媒体 (Academic) 上では相対的に頻度が低くなっていることから、格式張らない表現であることを裏付けている。

4. gotcha の (限定) 形容詞的用法を探る

今ひとつ、gotcha について掘り下げておきたい。今回の調査では、Green (2010) 以外では、形容詞として独立した形で扱っている一般の辞書は発見できず、その用法について手がかりを得るのは難しいが、本稿では名詞を修飾していると考えられる「gotcha + 名詞」の表現について、Green (2010) と同様に限定形容詞として扱い、その用例をいくつか見ていきたい。

まずオンライン版の辞書に載っている表現を参考にすることとする。Word Spy には、次の2つの用例が見つかる：

(15) a. Gotcha Day

n. The anniversary of the day on which a child was adopted.— *Word Spy*, s.v. **gotchaday**

b. gotcha journalism

n. Journalism that seeks only to catch public figures in embarrassing or scandalous situations.— *Ibid*, s.v. **gotcha journalism**

(15a) では、「子どもを養子に迎えた記念日」を指す言葉として使用されており、続けて “Adoption Day” “Family Day” “Adoption Anniversary” が類似表現として存在していることも指摘されていた。gotcha は、got a child / children として解釈され、「子どもを得た(養子にした)」と理解されるようである。

次に、(15b) については、「有名人の醜聞のみを追い求めようとするジャーナリズム」であるという。⁵⁾

上記 (15a,b) の2例にはそれぞれ新聞記事を始めた媒体からの例文が挙げられているが、それは、gotcha 単体での、新聞などのメディアにはそぐわない格式張らない口語表現としての言語特性が、形容詞化して他の名詞と結合することで薄れているためであると考えられる。

もう一例、*Macmillan Dictionary Online* で確認できる gotcha question について見ておきたい。これはアメリカの政治とジャーナリズムとの関係で知っておくべき表現の1つであろう。その定義は以下のようなものである：

(16) a question designed to trip someone up

I'm not going to give you any gotcha questions. — *MDO*, s.v. **gotcha question**

意味としては、「(相手の失言を引き出すための) ひっかけの質問」となる。さらに詳しく、政治との関わりの中で使用される場合の定義している *Taegan Goddard's Political Dictionary* (h

ttp://politicaldictionary.com/words/gotcha-question/) も参考になる。

(17) A question posed by a reporter in an effort to trick a politician into looking stupid or saying something damaging. — *Taegan Goddard's Political Dictionary*, s.v. **gotcha question**

この定義では、ひっかけ質問を行うのはレポーターであり、質問を受けるのは政治家に限定されている。

さらに情報を付け加えると、以下 (18) のタイトルで簡単な概要を説明している *The Washington Post* の記事もあり、この表現の使用が比較的新しく、また主にジャーナリズムの世界で広く使用されていることが改めて確認できるだろう：

(18) A brief history of the 'gotcha question' in politics

(https://www.washingtonpost.com/blogs/in-the-loop/wp/2015/02/24/a-brief-history-of-the-gotcha-question/?utm_term=.e21a9943862e)

では、この他に **gotcha** は形容詞的にどのような名詞を修飾しているのだろうか。上記のような辞書に採録されている特定の名詞 **day**, **journalism**, または **question** のみを形容する働きのみを持つのではなく、その修飾対象は様々である。

本稿では、主にその使用頻度が比較的高かったアメリカ英語を調査するため、COCA で **gotcha** とどのような名詞が共起しているのか確認した。⁶⁾ 1例しか見つからないのも多く、データとしては参考で程度ではあるが、**gotcha** の形容詞的用法を知り、今後さらなるデータ収集と研究を行う上で一つの手がかりにはなると思われる：

(19) Gotcha に後続する名詞

単語	頻度
QUESTIONS	19
QUESTION	14
JOURNALISM	13
POLITICS	11
MOMENTS	7
MOMENT	6
GRIN	5
SMILE	4
SYNDROME	3
CAPITALISM	2
CONTEST	2
ELEMENT	2
GAME	2
PROGRAM	2
SMIRK	1
SNAPSHOTS	1
HOOKS	1
TACTIC	1
STING	1
MISTAKES	1
CYCLE	1
PHASE	1
INTERVIEWS	1
TV	1
APPROACH	1
CULTURE	1
PROJECT	1
MEDIA	1

(19) では、ほぼ全ての用例が話し言葉であり、前述の question(s) が最も頻度が高く、次いで、これも既に触れた journalism が続いた。

全ての表現についての言及は避けることとするが、この他に傾向として読み取れる特徴として目立ったものとしては、gotcha question と類似の表現として、人のミスを引き出すための行為に関連した interview, approach, project が確認できる。

また同様に、人の醜聞を追いかけるジャーナリズム (journalism) と類似した表現としては、特定の分野を表す名詞が後続し、politics をはじめ、TV, media, culture, capitalism などがあり、政治や経済と、gotcha という形容詞の相性の良さが分かる。

そして、醜態を晒し、gotcha と言われてしまうような瞬間を指す gotcha moment も比較的多く確認できる。

さらに、Green (2010) に “He had a ‘gotcha’ smile on his face.” とあったように、人の表情を修飾する用法もいくつか見られた。smile の他、grin や smirk がそれぞれ gotcha によって修飾されている。どれも、gotcha と言うべき機会を得て、にやりとした表情を表したものであった。

以上の表現は、(15a) の gotcha day 例を除き、基本的にはすべてネガティブな意味を持っており、また gotcha 単独で感嘆詞として使用した場合に現れる、I understand という意味から派生したと思われる形容詞的用法は存在しないことも注目し得る。gotcha が形容詞的に用いられる場合、“I have got you!” のすべての意味を継承しているわけではないようである。同じように、名詞用法においても、例えば「理解、了解」というような、I understand から派生したと思われる定義は確認できていない。

ただし、上記のような大規模なコーパスに現れない表現も存在することを留意しておくべきであろう。gotcha をはじめ、柔軟性を持って日々様々な場面で使用される口語表現が、必ずしも全てコーパスの中にすくい取られているわけではないからである。

以下の (20) は、e-mail を修飾する gotcha である：

- (20) In addition, I get skewered when I make an error (or perceived error) myself. So when I was quoted in an article saying, “I feel bad about that,” a lot of readers saw a chance to send me a gotcha e-mail message about using *bad* to modify feel. —Fogarty, Mignon (2008, p.15)

文法について頻繁に議論する (20) の筆者が、自動詞 feel の補語としての形容詞 bad と、副詞としての用法 badly について勘違いした読者から、「文法に詳しいはずなのに間違いを犯している！」というような内容の e-mail を受け取り、それを gotcha e-mail (message) と表現している。

また、本稿冒頭の (1) ですでに触れたように、(21a, b) のような特殊な例もあり、エクスクラメーションマークを含めた形で形容詞的に使用されるものもある (cf. 竹中 2017)。エクスクラメーションマークを使用する感嘆詞としての用法から派生したと考えられ、人の文法の誤りを指摘して回る集団のことを、gotcha! gang としているわけである。：

- (21) a. The return of the Gotcha! Gang

(<http://www.nytimes.com/2008/12/07/opinion/07iht-edsafire.1.18459156.html>)

b. This space has been hijacked this week by the Gotcha! Gang, a growing legion of readers who take preternatural delight in exposing the grammatical errors of the resident columnist. Their motto: "No Haven for the Maven." (Excuse me; its motto.)

(<http://www.nytimes.com/1998/12/27/magazine/on-language-nyah-nyah-gotcha.html>)

ただし、同じ **gang** を修飾しているにもかかわらず、(22) のように、エクスクラメーションマークのない形で用いられていることもある。

(22) The latest member of the gotcha gang is Republican presidential hopeful Rick Santorum being asked about a billionaire's supporter's controversial remarks on birth control.

(<http://transcripts.cnn.com/TRANSCRIPTS/1202/17/acd.01.html>)

この綴字法については、相手の発音を文字化した人の言語観によるためのものであり、必ずしも発言者の認識と一致しているとは限らないことも難しい問題である。この点については、考慮しておく必要があるだろう。また、(22) は、(21a, b) とは異なり、政治的な文脈で用いられており、主に政治的な失言が“gotcha”の対象となっている。必ずしも **Gotcha! Gang** があら探しするのは、文法的な誤りだけではないことが分かる。

5. おわりに

本稿では、**gotcha** という表現の用法と意味について、辞書の記述や実例を通してその様々な側面を再度確認し、また、未だ議論が不足していると思われる点について明らかにした。

まず、それぞれその定義や詳細さに偏りがある英英辞典と英和辞典の定義を整理し、主に感嘆詞と名詞の用法とその意味を概観した。そして、Green (2010) の記述を参考に、もう一つ、(限定) 形容詞のように振る舞う **gotcha** の用法が存在することを指摘した。

同時に、**gotcha** という表現がイギリス英語において非常に大きなインパクトをもつ語として認知されることになったきっかけである新聞 *The Sun* の記事のタイトルに触れ、言語的のみならず、社会的にも興味深い背景を抱えていることを確認した。

言語的な特徴としては、この他に **gotcha** と **gotcher** という2つの形式について、辞書やコーパスのデータから、**gotcha** が優勢な綴字法であることを明確にした。

最後に、**gotcha** の形容詞的用法について、現代英語ではイギリス英語よりアメリカ英語においてその用例が多く確認できることから、アメリカの中でどのように振る舞っているのか、すなわち、どのような語を修飾するために用いられているのかを調査した。具体例を示しながら、政治やメディアに始まり、英文法を議論するにいたるまで、様々な場面で **gotcha** が形成する表現が広がりを見せていることを示すと同時に、「話し言葉の綴字法」という、資料収集からその分析まで、研究対象として扱いの難しい課題も存在していることを指摘した。

注

- 1) Steven Pinker の著書, *The Sense of Style: The Thinking Person's Guide to Writing in the 21st Century* の抜粋が, “Why grammar pedants miss the point” と題されて BBC の記事になったものである。
- 2) ただし, 捕まえる対象は必ずしも人間 (someone) とは限らないと思われる。

MOTHER GOOSE & GRIMM

Friday, Oct. 2nd, 2015 [click image to enlarge](#)



(<http://www.grimmy.com>)

- 3) gotcha が感嘆詞として用いられるとき, 必ずしもエクスクラメーションマークが直後に現れるとは限らない:

“Gotcha, you little thief!” – *OALD8*, s.v. **gotcha**

- 4) 2018年3月20日現在, 約5億7千万語
- 5) Journalism を巡る類似表現としては, yellow journalism もある。
- 6) 1例のみ見つかった名詞の中には, 例えば商品名の一部となっているものなど, 興味深い者も確認できたが, 今回の形容詞的用法と直接関わりの無いものは削除してある。

参 考 文 献

[辞書・論文・研究書]

CALD3 = *Cambridge Advanced Learners Dictionary*. 3rd edition. Cambridge: Cambridge University Press. 2008.

LDEL3 = *Longman Dictionary of English Language and Culture*. 3rd ed. Harlow, Essex: Pearson Education. 2005.

MDO = *Macmillan Dictionary Online*. London: Macmillan Publishers. 2009–2017.

[<http://www.macmillandictionary.com/>]

OALD8 = *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. 8th ed. Oxford: Oxford University Press. 2010.

OALD9 = *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. 9th ed. Oxford: Oxford University Press. 2015.

ODE3 = *Oxford Dictionary of English*. 3rd edition. (Revised). Oxford: Oxford University Press. 2010.

OED2 = *The Oxford English Dictionary*. 2nd ed. CD-ROM. Oxford: Oxford University press. 2009.

Taegan Goddard's Political Dictionary

[<http://politicaldictionary.com/words/gotcha-question/>]

Word Spy [<https://www.wordspy.com/>]

『小学館ランダムハウス英和大 2』 = 『小学館ランダムハウス英和大辞典』 第 2 版. 小学館. 1973, 1994².

『ジーニアス英和 5』 = 『ジーニアス英和辞典』 第 5 版. 大修館書店. 2014.

『リーダーズ英和 3』 = 『リーダーズ英和辞典』 第 3 版. 研究社. 2013.

Crystal, David (2003), *The Cambridge Encyclopedia of the English Language*. 2nd ed. Cambridge: Cambridge University Press.

Fogarty, Mignon (2008) *Grammar Girl's Quick and Dirty Tips for Better Writing*. New York: St. Martin's Press.

Green, Jonathon (2010), *Green's Dictionary of Slang*. London: Chambers Harrap Publishers.

竹中裕貴 (2017), 「Grammar Nazi とその関連表現を探る」『英語の言語と文化研究』 第 30 号, pp.101-116.

山田政美 (1982), 『現代アメリカ語法—フィールドノート—』 研究社出版.

———— (2014), 『英語の言語と文化研究—質問に答えて謎を解き明かす—』 (私家版) (CD-ROM)

[コーパス]

COCA = Corpus of Contemporary American English [www.american.corpus.org]

BNC = British National Corpus [<https://corpus.byu.edu/bnc/>]

[インターネット資料]

BBC

<http://www.bbc.com/culture/story/20140923-dont-be-a-gram-mar-nazi>

CNN <http://transcripts.cnn.com/TRANSCRIPTS/1202/17/acd.01.html>

Mother Goose & Grimm <http://www.grimmy.com/>

The New York Times <http://www.nytimes.com/1998/12/27/magazine/on-language-nyah-nyah-gotcha.html>
<http://www.nytimes.com/2008/12/07/opinion/07iht-edsafire.1.18459156.html>

The Telegraph <https://www.telegraph.co.uk/news/picturegalleries/worldnews/9051902/The-Falklands-War-in-pictures.html?image=11>

The Washington Post https://www.washingtonpost.com/blogs/in-the-loop/wp/2015/02/24/a-brief-history-of-the-gotcha-question/?utm_term=.e21a9943862e

(たけなか ゆうき・島根大学外国語教育センター准教授)

